

V O L U M E

17

DK VOICE Vol.17

第47期 株主通信

2019年4月1日 —→ 2020年3月31日

DK ダイコク電機株式会社

証券コード 6430

目次

社長インタビュー

Top interview

「AI」「業務の省力化」を
当社のアピールポイント
として強化していきます。

01

連結決算ハイライト

業界動向

事業概要・セグメント情報

トピックス

会社及び株式の状況

裏表紙

09

07

06

05

「AI」「業務の省力化」を 当社のアピールポイントとして強化していきます。



代表取締役社長
大上 誠一郎

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
このたびの新型コロナウイルス感染症に罹患された皆さまには、謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早いご快復を心よりお祈り申し上げます。また、医療従事者をはじめ感染防止にご尽力されている皆さまに、深謝申し上げます。

Q はじめに、
現在の事業環境について
お聞かせください。

A **新型コロナウイルスの感染防止に向けて全国の
パチンコホールに対し、休業要請が出される未曾
有の事態となりました。**

近年、パチンコ業界では遊技人口の減少等を背景に、市場規模の縮小が続いていましたが、そのような状況下において新型コロナウイルスが感染拡大し、感染防止に向けて政府・自治体から全国のパチンコホールに対し、休業要請が出される未曾有の事態となりました。

一方、2018年2月に「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行規則及び遊技機の認定及び型式の検定等に関する規則の一部を改正する規則」(以下、新規則)が施行され、2021年1月末を期限として、新規則に対応したパチンコ・パチスロ遊技機への完全移

行が求められていました。

ところが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、遊技機の入替が困難となり、更には入替作業に伴う感染リスクも懸念されることから、従来の改正規則で「3年」としていた経過措置は「4年」に改正されました。その結果、新規則遊技機への完全移行の期限については、最大2022年1月末まで1年間延長されることになりました。

現在、緊急事態宣言の解除に伴い、パチンコホールに対する休業要請は一部の地域を除き解除され、多くのパチンコホールにおいて営業が再開されています。しかしパチンコホールが平常時の稼動状況に戻るには、相当な時間を要するものと思われます。

2020年3月期連結業績実績

売上高	32,922 百万円	(前期比 5.6%増)
営業利益	1,431 百万円	(前期比 6.3%減)
経常利益	1,674 百万円	(前期比 4.2%減)
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,061 百万円	(前期比 16.0%減)

Q 2020年3月期を振り返り、 営業状況を総括願います。

A 上期における情報システム事業の好調により、
償却負担の発生に伴う減益幅を想定以下に
抑えました。

当期(2020年3月期)は、2019年6月から販売を開始した新製品AIホールコンピュータ「X(カイ)」のソフトウェアと社内基幹システムの償却負担発生を見込み、あらかじめ増収・減益を想定していましたが、上期における情報システム事業の好調により、減益幅を想定以下に抑えることができました。なお当期中においては、新型コロナウイルスの感染拡大による業績への影響はほとんどありませんでした。

結果として当期の連結業績は、売上高329億22百万円(前期比5.6%増)、営業利益14億31百万円(同6.3%減)、経常利益16億74百万円(同4.2%減)、親会社株主に帰属する当期純利益10億61百万円(同16.0%減)となりました。

次に、営業状況の振り返りを事業セグメント別に述べてまいります。

情報システム事業は、既存ホールコンピュータ「CⅡ」から新製品AIホールコンピュータ「X」へのシステムア

ップ提案に注力するとともに、「X」を中核とするネットワークサービス(MIRAIGATEサービス)のひとつである、商圈分析サービス「Market-SIS」の活用提案を行いました。またCRユニット「VEGASIAⅢ」、情報公開機器「BiGMO PREMIUMⅡ」「REVOLA」においても、新たな提案とともに拡販に努めました。

その結果、情報システム事業は上期において好調に推移し、下期は新規店舗・大規模改装が減少した影響や、新規則遊技機への入替に伴いパチンコホールが設備機器への投資を抑制した影響がありましたが、売上高263億54百万円(前期比7.7%増)、セグメント利益31億4百万円(同13.9%増)となりました。

制御システム事業は、パチンコ遊技機向けの部品販売が好調に推移しましたが、市場全体の新台販売台数が減少した影響で、表示ユニット及び制御ユニットの販売が厳しい状況となり、売上高65億98百万円(前期比2.1%減)、セグメント利益78百万円(同83.9%減)となりました。



Q 「X」を柱とする 今後の成長戦略を ご説明願います。

A 「AI」「業務の省力化」を
当社のアピールポイントとして
強化していきます。

「X」の市場投入初年度となった当期は、既存ホールコンピュータ「CⅡ」の導入先を中心に営業展開し、「X」へのシステムアップを推進しました。その結果、導入パチンコホールに評価いただき、当社は今後の販売拡大に自信を深めています。



将来構想ですが、今後のパチンコホール経営においては、人手不足の問題がますます深刻化し、省力化に向けた本格的な取り組みが始まると見えています。また、当社の主要顧客である大手ホールが積極的にM&Aを行い、業界再編の活性化が予想されます。その中で当社の「X」を採用いただくため、「AI」や「業務の省力化」を当社のアピールポイントとして強化していきます。

Q 2021年3月期の 展望と取り組みを お聞かせください。

A 環境の悪化による減収・減益を予想。
「X」へのシステムアップと「Market-SIS」の
普及に注力します。

冒頭にご説明しました通り、今期(2021年3月期)のパチンコ業界は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴うパチンコホールへの休業要請とその余波を受け、極めて厳しい環境が予想されます。また当面は、先行き不透明な状況が続いていくものと思われます。

そうした状況を踏まえ、当社の連結業績については、売上高280億円(前期比15.0%減)、営業利益4億円(同72.1%減)、経常利益5億円(同70.1%減)、親会社株主に帰属する当期純利益3億円(同71.7%減)と、減収・減益を予想しています。

ただし、ここに挙げた予想数値は、パチンコホールの休業要請が早期解除され、新型コロナウイルス感染症の第2波襲来も限定的で、新規則遊技機への入替が順調に進展するという、三つの条件を前提としています。これらの状況に変化が生じ、業績予想の修正を余儀なくされた場合は、速やかに開示いたします。

今期の取り組みですが、まず情報システム事業については「X」へのシステムアップと「Market-SIS」の普及に注力します。

2020年4月より、新機能「遊タイム」を搭載した遊技機の導入が認められました。今後は、新たなゲーム性である「遊タイム」を搭載した遊技機が増えると予想しており、新規則遊技機への入替促進が期待されます。

「X」へのシステムアップについては、導入拡大が見込まれるこの「遊タイム」搭載遊技機に対応した、ファンがもっとパチンコを楽しく遊技できる機能を追加することで、パチンコホールの集客を支援します。

また、新型コロナウイルス感染症に対応した取り組みとして、遊技機の清掃・消毒状況と、呼出ランプとを連動させた機能を追加します。更には営業活動において、これまでの展示会によるプロモーションに代えて、WEBサイト

2021年3月期連結業績予想

売上高	28,000	百万円 (前期比 15.0%減)
営業利益	400	百万円 (前期比 72.1%減)
経常利益	500	百万円 (前期比 70.1%減)
親会社株主に帰属する 当期純利益	300	百万円 (前期比 71.7%減)

上で動画を活用した提案を行います。

「X」を中核とするMIRAIGATEサービスについては、前期より継続して商圏分析サービス「Market-SIS」の普及に注力し、パチンコホールの経営をサポートする分析機能を更に強化します。

一方、制御システム事業は、新規則遊技機への入替が進む中で着実に売上を伸ばしつつ、開発体制の見直しと業務効率の改善を図ることで、業績の回復を目指します。また今期は、当社初となるパチスロ遊技機の受託開発を手掛けていく予定です。

なお当社は、2020年4月1日付で「研究開発部」を新設しました。研究開発部は、AIやIoT、5Gなど最新技術を社内を導入するための技術基盤構築を担い、アフターコロナにおいて当社が更なる成長を遂げるための布石となります。

Q 株主の皆さまへのメッセージ をお願いします。

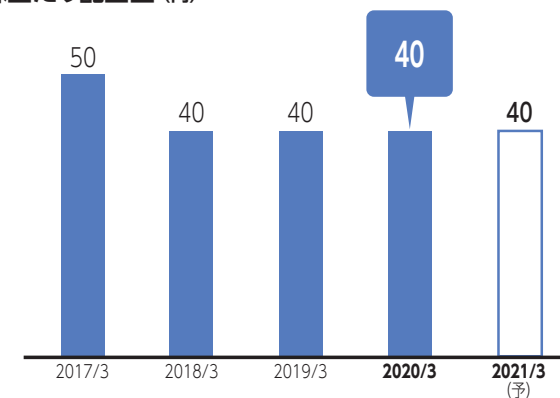
A 困難な状況を業界全体で克服し、
再興に向けて前進するために、
イノベーションによる貢献を果たします。

当期の期末配当は、環境変化への対応や成長投資に必要な内部留保とのバランスを勘案しつつ、安定配当の維持を基本とする利益還元方針に基づき、予定通り1株当たり30円とさせていただきました。これにより、中間配当の同10円と合わせた年間配当は同40円、連結配当性向は55.7%となりました。今期の業績は利益の大幅な減少を想定していますが、配当額については同水準を維持する考えで、年間同40円(中間10円・期末30円)を予定しています。

新型コロナウイルス感染症の影響で、私たちは今後の見通しが極めて困難な状況に置かれています。この先、過去の経験や数字が役に立たず、多くの困難を伴う局面を迎える可能性もあります。こうした状況を業界全体で克服し前進していくために、当社は有益な情報や製品・サービスをタイムリーに提供し、イノベーションによる貢献を果たしてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

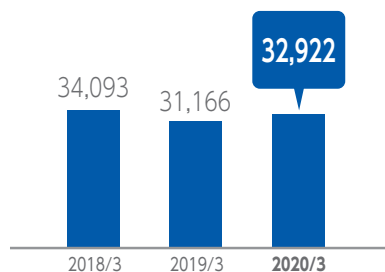
1株当たり配当金(円)



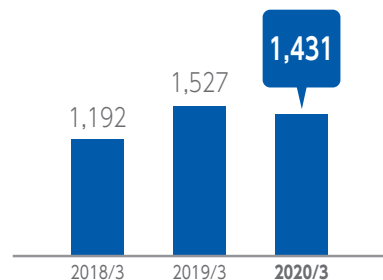
連結決算ハイライト

(単位：百万円、単位未満は切捨て)

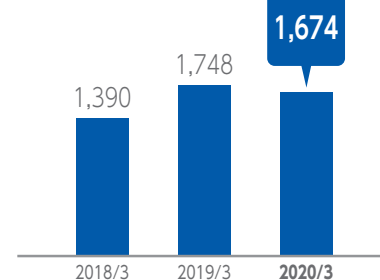
売上高



営業利益



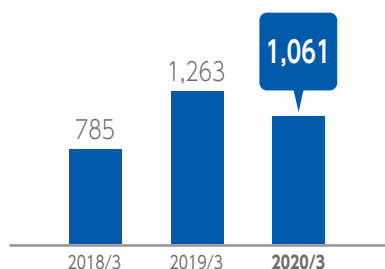
経常利益



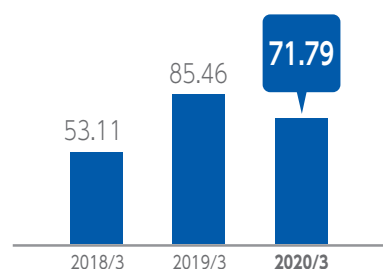
2020年3月期 資産の状況



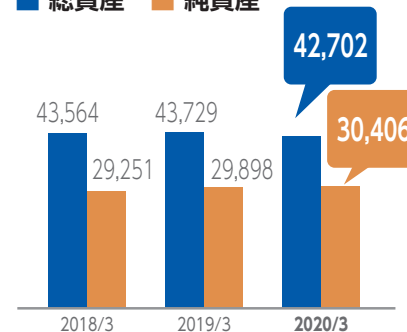
親会社株主に帰属する当期純利益



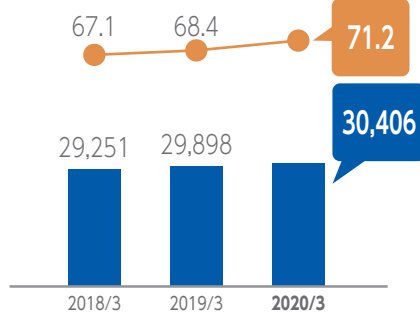
1株当たり当期純利益 (円)



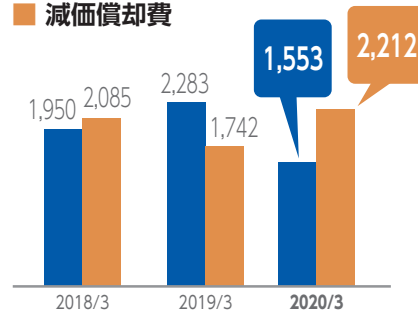
総資産 純資産



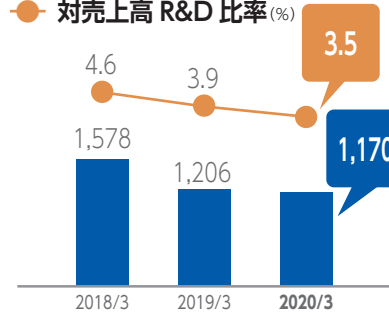
自己資本 自己資本比率 (%)



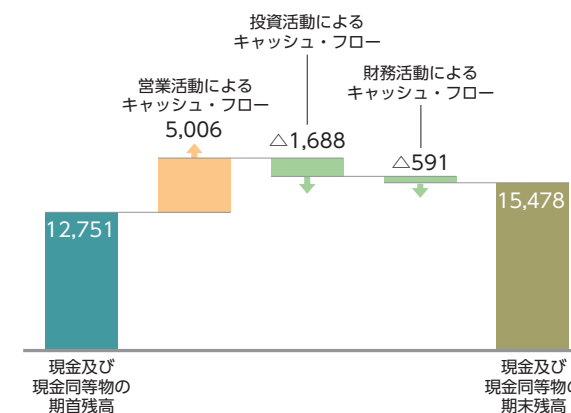
設備投資額 減価償却費



研究開発費 対売上高 R&D 比率 (%)



2020年3月期 キャッシュ・フローの状況

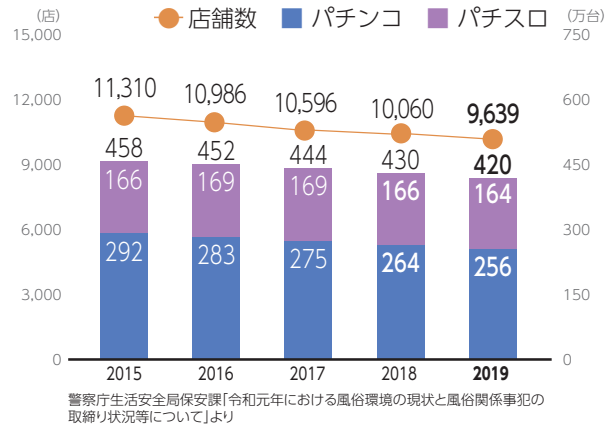


業界動向

詳細な業界動向については、当社サイト
<https://www.daikoku.co.jp/gyokai/>
 をご覧ください。



■ パチンコ店舗数と遊技機設置台数の推移

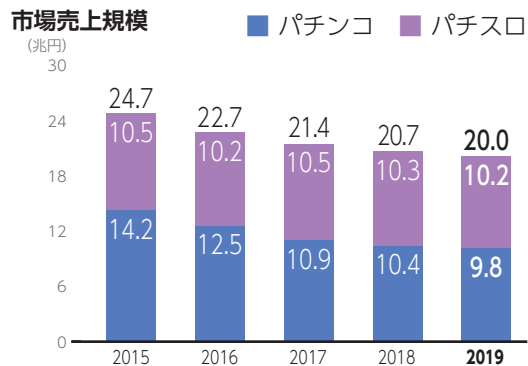


2019年の店舗数は10,000店舗を割り込み9,639店舗となり、店舗数の長期にわたる減少傾向が続いています。遊技機設置台数も同様に減少傾向が続いています。

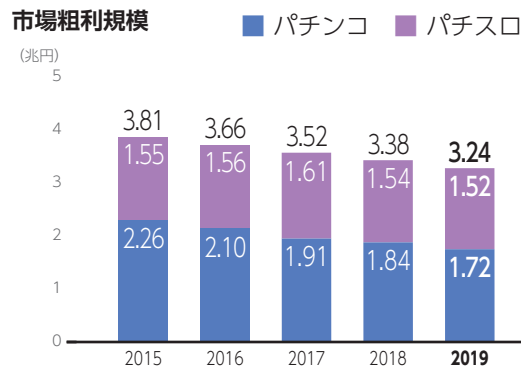
パチンコ遊技機・パチスロ遊技機別では、パチンコ遊技機の設置台数が減少を続けている一方で、パチスロ遊技機の設置台数は微減に留まっています。

2019年の設置台数別店舗数を2018年と比較すると、設置台数101台～500台の中・小規模店舗は減少傾向となっている一方で、1,001台以上の大規模な店舗は増加が続いています。また平均設置台数は前年に比べ7.6台増加の435.3台となり、全体の店舗数が減少する中においても増加の一途をたどっており、店舗の大型化が引き続き進んでいることが分かります。

■ 「DK-SIS」が推測する売上規模・粗利規模※（「DK-SIS白書 2019」より）



業界の市場規模はDK-SISの実データからの推測で、売上規模は約20.0兆円、粗利規模は約3.24兆円となりました。売上規模・粗利規模ともに年5%程度の縮小が続いており、市場を取巻く環境は年を追うごとに厳しくなっているといえます。パチンコ・パチスロ別で見ると、パチンコの売上規模・粗利規模は縮小傾向が続く一方で、



パチスロは下げ止まりが見られます。結果として、売上規模においてはパチスロが初めてパチンコを上回りました。パチスロの市場規模が下げ止まった要因として、パチスロではパチンコ以上に業績を旧規則遊技機に依存しており、これらの機種種の業績が堅調に推移したことが考えられます。

■ 今後の業界動向推測

2020年2月からの新型コロナウイルス感染症の影響でパチンコホールは時間短縮営業を実施し、更に4月には全国的に営業を自粛するまでに至っています。2020年5月末までには、ほとんどのパチンコホールで営業を再開したものの、売上・粗利は2020年2月以前を大きく下回る水準で推移しています。更に、今後旧規則遊技機をすべて新規則遊技機へと入替しなければならず、遊技機購入費用が高むことから、業界規模はここ数年と比較して大幅に縮小することが予想されます。

このように非常に厳しい見通しであるからこそ、新型コロナウイルス感染症の影響が収束した後の営業戦略は非常に重要になると考えられます。次々と旧規則遊技機が設置期限を迎える中で、ファンに人気のある遊技機は何であるのか、それらの機種をどのように活用していくのか、その時々トレンドを把握しスピーディに行動することが今まで以上に求められてくると思われます。

しかし、厳しい話題ばかりでもありません。2019年末に「技術上の規格解釈基準」が改正され、併せて日工組・日電協の内規等が改正されました。それによりパチンコでは「遊タイム」をはじめとした新しい機能が追加され、パチスロでは6.1号機の開発が可能となりました。今回の改正によりパチンコ・パチスロともにゲーム性の幅は大きく広がることが想定されます。

今後も重要な意思決定の材料のひとつとして、当社の「DK-SIS」は提案を続けてまいりますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

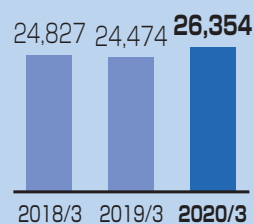
※2018年に算定根拠となるDK-SIS会員と会員以外の業績差の見積りの全面的な見直しを行い、業界全体の推測値を再計算したことにより、過去に発表した売上規模・粗利規模を上方修正しております。

情報システム事業

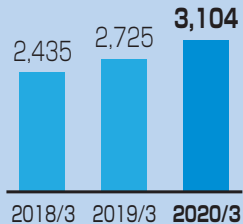
パチンコホール向けに、店舗運営に必要な管理機器「ホールコンピュータ」をはじめとする情報システム機器を提供するなど、企業経営・店舗運営を支援しています。



売上高

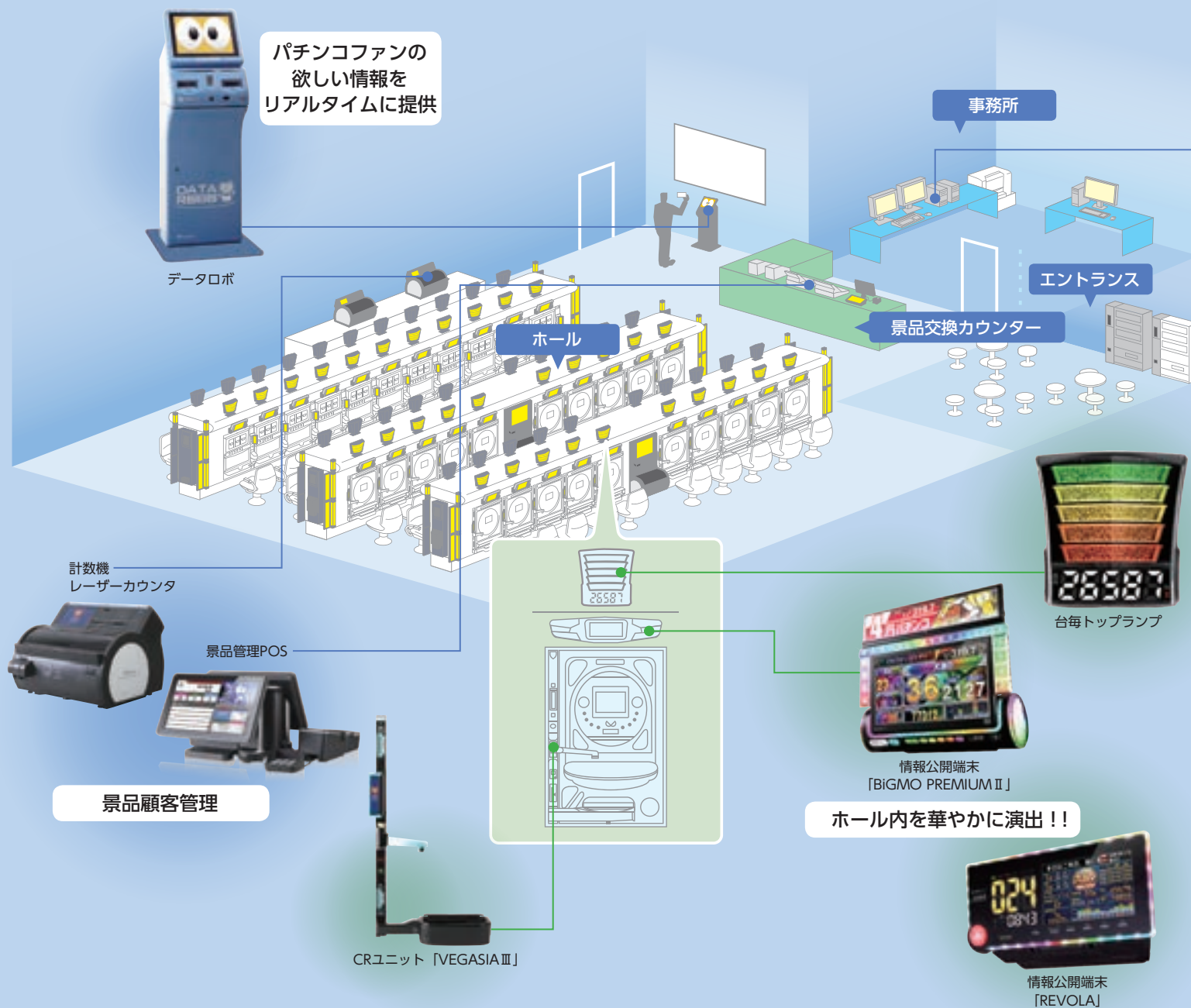


セグメント利益

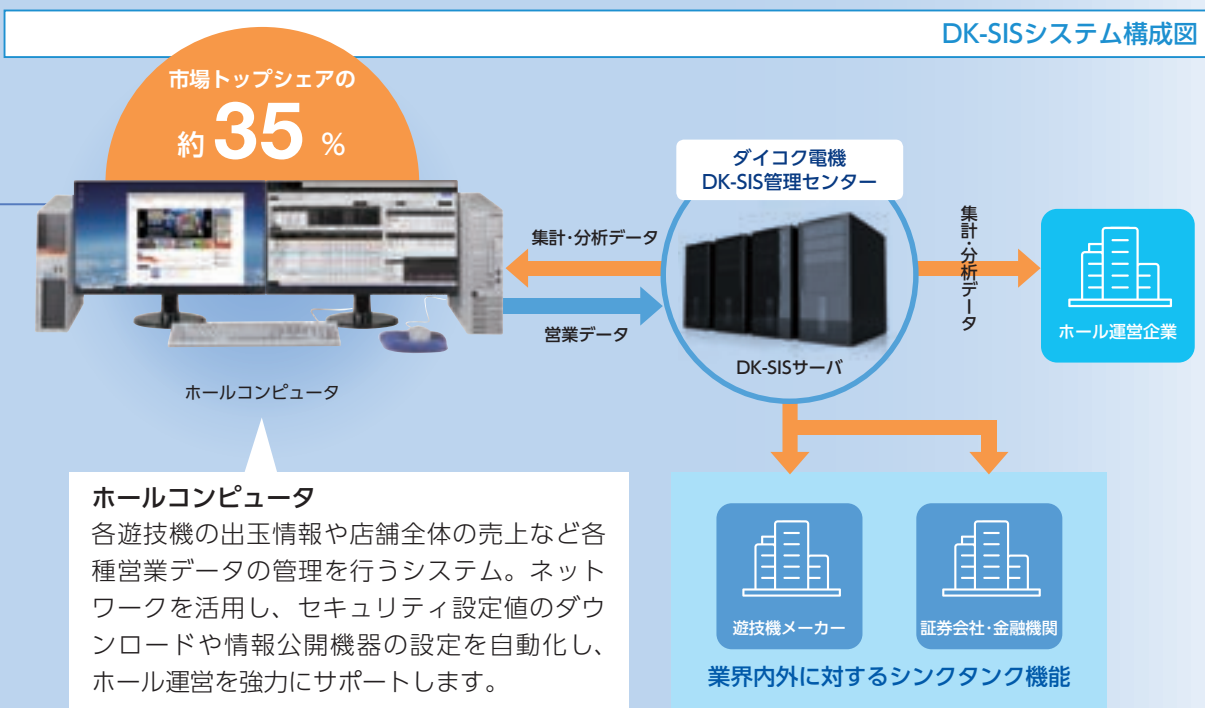


当期の営業概況

パチンコ遊技機向けに提案を強化している情報公開端末「REVOLA」は、高級感のあるスタイリッシュなフォームと多彩なコンテンツで市場の評価は高く、販売は前年度実績を大きく上回りました。CRユニット「VEGASIA」シリーズでは上半期の販売は好調に推移しましたが、下半期において新規店舗や大規模改装が減少した影響で前年度実績を若干下回りました。新製品AIホールコンピュータ「X(カイ)」では既存ホールコンピュータからのシステムアップの提案を推進し、順次新機能も追加搭載しておりますが、市場環境の冷え込みは厳しく、販売計画を若干下回りました。



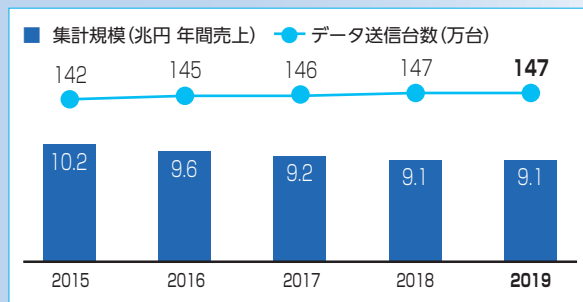
を提供し続ける市場創造型の企業です。



会員制情報提供サービス「DK-SIS」

「DK-SIS」は、1990年に店舗経営を支援する会員制システムとして誕生しました。パチンコホールの基幹システムであるホールコンピュータとダイコク電機とを専用回線で結び、日々の営業データを収集し、分析、加工後、パチンコホールに各種データを提供する顧客支援システムです。遊技機データ量は約147万台分、金額換算すると9.1兆円分のデータをベースに、遊技機動向や営業データなど付加価値の高い情報を提供。ホール経営支援から業界の発展にも貢献しています。

この大規模データを活用し、証券会社や金融機関など業界外にもパチンコ業界の指標を配信。リアルタイムで客観的な数値情報を公開することで、業界に対する信頼を構築しています。



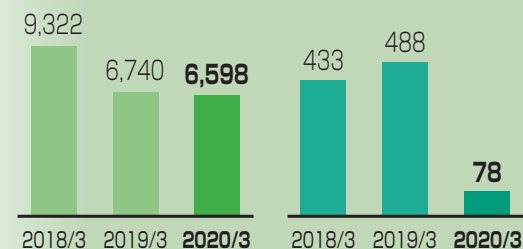
制御システム事業

パチンコ・パチスロ遊技機メーカーに対し、遊技機の表示や制御ユニットのハードウェア及びソフトウェアの開発からセールスプロモーションまで手がけています。



売上高

セグメント利益



当期の営業概況

パチンコ遊技機向け部品販売は好調に推移しましたが、市場全体の新台幣販売台数減少に伴う遊技機メーカーの販売計画見直しやリユース率の上昇等もあり、表示ユニット及び制御ユニットの販売においては前連結会計年度を下回る非常に厳しい結果となりました。

DK



遊技機市場の変化に対応した企画開発



映像制作・プログラミング



品質管理
(デバッグ・検査)



表示用ユニット・制御用ユニットの提供

遊技機メーカー

ホール内禁煙化を徹底サポート

2020年4月1日より「健康増進法の一部を改正する法律」が全面施行され、パチンコホール内は原則禁煙となり、一定の基準を満たした場所以外での喫煙は禁止されました。遊技客(ファン)の喫煙割合はおおよそ55%と言われており、ホールではファン離れの対策としても分煙環境の整備が急務です。

この変化に対応すべく、当社は「ちょっと離席機能」、喫煙ブース「Smoking Ark」、喫煙室用デジタルサイネージ「DiSMO(ディスマ)」をリリースしました。

NOW ちょっと離席機能

禁煙化で起こるホール内のさまざまな問題は、ホールコンピュータ「X」と各種製品がシステム連動した「ちょっと離席機能」で解決できます。離席の際に自分の遊技台を取られないよう、個人の持ち物を台に置くことでキープするファンも多いですが、置引き等のリスクがあり、ファンにとってもホールスタッフにとっても最適な方法ではありません。そんなときに役立つのは「ちょっと離席機能」です。



呼出ランプ

ファンが離席する際は「BiGMO PREMIUM」等の当社製の呼出ランプもしくはCRユニット「VEGASIAⅢ」の「離席ボタン」を押すことで液晶表示が離席中となり、遊技台がキープされるので安心して席を離れることができます。ファンにもスタッフにもアピールできるため、間違えて他のファンが座るなどのトラブルを未然に防ぐことができます。

CRユニット「VEGASIAⅢ」

CRユニット「VEGASIAⅢ」導入店ではファンの会員カードが鍵になることで、カード盗難の心配もなくセキュリティも万全です。また、離席時に使用したカードでのみ離席機能を解除できますので、戻り時の遊技台間違ひなど、ファン同士のトラブル対応や運用の手間もないため、スタッフの負担を軽減できます。

AIホールコンピュータ「X」

長時間の離席はホールコンピュータが検知し、スタッフにインカムやホール内へのアナウンスで注意を促すことができるため、スタッフは通常業務に専念したまま、離席で発生する新たな業務にスマートに対応できます。



NOW 喫煙ブース「Smoking Ark」

喫煙ブース「Smoking Ark」は、各種基準をクリアした材質・構造を用いて構成し、機能性とデザイン性を兼ね備えた落ち着いた喫煙環境をファンに提供できます。

入口に扉を設けないことにより開放感があり、扉を開け閉めするためのドアノブ等に触れる必要がないため、ウイルスへの感染リスクを減らすことができます。また、空調が効いた店内の空気を常時取入れられるため、店内と同等の快適さを実現しています。

壁面にはモニターの取付けが可能で、喫煙時のファン向けに効果的な情報発信ができます。また、人感センサー搭載で、人の出入りを検知しライトの自動オフ等スタッフの手を煩わせることなく節電対応が可能となっています。

NOW

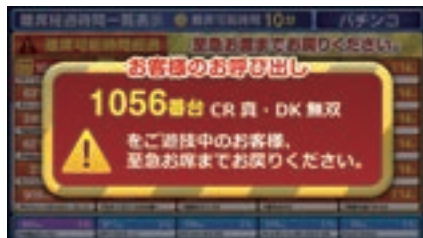
喫煙室用デジタルサイネージ「DiSMO」

喫煙室用デジタルサイネージ「DiSMO」は、「ちょっと離席機能」を使用している台の一覧を表示でき、ファンは自分が何分離席しているかを確認できます。右下のサイネージ部分に「ちょっと離席機能」の使用方法的サイネージを流すことで、「ちょっと離席」を使った喫煙タイムを当たり前の環境として構築することができます。

また、離席可能時間を超えた台をPOPアップ画面と音でアピールすることで長時間の離席を防ぎ、スタッフの確認作業の負荷軽減にも繋がります。



離席可能時間表示



POPアップ画面

主な機能

■離席経過時間一覧表示

遊技台の離席経過時間を一覧で表示します。

■お客さま呼出表示

離席可能時間を一定時間経過した台番と機種名を画面に表示します。

■サイネージ

静止画、動画コンテンツをスケジュールリングして表示します。

「ちょっと離席機能」と「Smoking Ark」、「DiSMO」はホールの禁煙化時代の新たな問題を解決できるツールです。当社の強みであるオールインワンシステムで喫煙場所の提供だけでなく、一歩先の禁煙化対応を提供しています。今後も時代の変化に対応した業界を牽引する製品・サービス開発に注力してまいりますので、どうぞ皆さまご期待ください。

NOW

WorkingAssist ウェアラブル端末「WW-01」

～ホール運営の効率化・省人化をサポート～

昨今、パチンコホールにおける人手不足は喫緊の重要課題となっています。新規店舗のオープンに際して、スタッフを集めることができず予定を変更せざるを得ない、といった状況も聞こえてくるほど事態は深刻化しています。ホールの切実な声にお応えして「少人数のスタッフでも高品質な業務遂行が可能な環境を」をコンセプトに、ウェアラブル端末「WW-01」をリリースしました。

本製品は1.39インチの大型液晶を搭載したスマートウォッチ型の端末で、当社が提供する無線LAN環境下で動作し、ホールコンピュータと連動してスタッフの業務効率化・省人化をサポートします。

ファンからの呼出し通知はもちろん、遊技台データの異常や不正検知等を端末の振動と画面表示でスタッフへ伝えます。それぞれの端末は連動しており、対応者の決まったイベントから通知オフとなり、普段はインカムでのやり取りで行っていた連携もスムーズになり、タイムロスも解消できます。

他社には真似のできないホールコンピュータ連動ならではの機能として、当社の呼出ランプやCRユニット等その他製品のリモコン機能も搭載し、スタッフの働き方をよりスマートに、より効率的なものへと導きホール運営の省人化をサポートします。

今後も、ホールの抱える課題に真摯に寄り添い、当社が誇るオールインワンのメリットを最大限に活用し、「働き方改革」を推進するさまざまな製品をリリースしていく予定です。WorkingAssistシリーズのこれからの展開にご期待ください。



2021年3月期の株主優待制度について

当社グループが携わるパチンコ業界におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響や旧規則遊技機の撤去期限延長など、先行き不透明な状況にあります。

当社は株主の皆さまへの利益配分として配当重視とさせていただきたく、引続きコスト削減に努め、2015年9月より実施している株主優待制度の見直しも検討しております。2021年3月期の株主優待制度の内容につきましては確定次第、速やかに開示いたします。

会社及び株式の状況 (2020年3月31日現在)

会社概要

商号 ダイコク電機株式会社
DAIKOKU DENKI CO., LTD.
創業 1965年 9月
設立 1973年 7月
資本金 6億7千4百万円
本社 名古屋市中村区那古野一丁目43番5号
従業員数 (単独) 439名 (連結) 640名
事業内容 パチンコホール向けコンピュータシステムの開発・製造・販売
パチンコ遊技機用ユニット・パチスロ遊技機の開発・製造・販売
決算期 3月31日
事業所 3事業所、4支店、13営業所
連結子会社 元気株式会社、DAXEL株式会社、
ダイコク産業株式会社、アロフト株式会社

役員 (2020年6月25日現在)

代表取締役会長	栢森 雅 勝
代表取締役社長	大 上 誠 一郎
代表取締役専務	栢 森 健
常務取締役	大 成 俊 文
取締役	栢 森 啓
取締役	藤 巻 靖 裕
取締役	松 原 真 那 武
取締役	岡 本 篤 憲
取締役	足 立 芳 寛
取締役	武 田 邦 彦
常勤監査役	吉 川 幸 治
監査役	村 橋 泰 志
監査役	田 島 和 憲
監査役	知 念 良 博

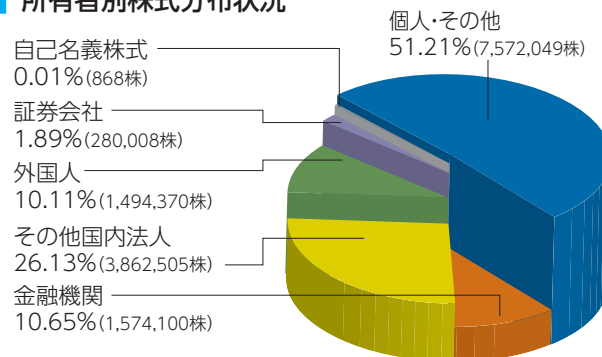
(注) 1. 取締役 足立芳寛氏、武田邦彦氏は社外取締役であります。

2. 監査役 村橋泰志氏、田島和憲氏、知念良博氏は社外監査役であります。

株式の状況

発行可能株式総数 66,747,000 株
発行済株式総数 14,783,900 株
株主数 11,674 名

所有者別株式分布状況



大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
栢森 健	1,652,200	11.17
栢森 雅勝	1,014,650	6.86
栢森 美智子	926,000	6.26
栢森 寿恵	813,100	5.50
栢森 和代	773,000	5.22
公益財団法人栢森情報科学振興財団	750,000	5.07
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	455,100	3.07
栢森 綾音	443,500	3.00
栢森 新治	443,450	2.99
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	321,700	2.17

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日
定時株主総会 6月下旬
基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
その他必要があるときは、
あらかじめ公告いたします。

一単元の株式数 100株
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 〒460-8685
名古屋市中区栄三丁目15番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063
電 話 照 会 先 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
TEL.0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の
本店及び全国各支店で行っております。
公 告 方 法 電子公告によります。ただし、やむを得ない
事由によって電子公告ができない場合は、
日本経済新聞に掲載いたします。

公告のホームページアドレス
<https://www.daikoku.co.jp>